

香川県の近代和風建築



香川県教育委員会では、平成20年度からの2年間、文化庁の補助を受けて「香川県近代和風建築総合調査」を実施いたしました。「近代和風建築」とは、主として明治元年から昭和20年までの間に、日本の伝統的な木造建築の技法で建てられた建築物を指します。この時代には、木造建築の伝統的技術が最高点に達し、優れた和風建築が作られると同時に、西洋からもたらされた新しい建築の様式や技術を取り入れる試みがなされました。香川県内にも多様な近代和風建築が現存しており、これらは、地域で継承されてきた技術の到達点や、地域における近代化の過程を理解する上で重要なものと言えます。

しかし、戦後60年以上が経過し、建物の老朽化や生活様式の急速な変化の中で、多くの近代和風建築は十分な調査が行われないうちに、その姿を失いつつあります。

そのような中、今回の2年間にわたる調査を通じて、県内で約2,700件の近代和風建築の所在を確認し、そのうち73ヶ所の建築について詳細な調査を実施し、構造や間取、細部の意匠などから時代や地域によって異なる特徴を見出すことができました。

これらの成果が、一人でも多くの方に、身近にある近代の建造物の歴史的・文化的意味を考えていただくきっかけとなり、今後の保存や活用を図る上で、香川県における近代和風建築の実情を示す基礎資料として活用されれば幸いです。

(平成22年3月、香川県教育委員会)

(7101096720)